

課題名 レオナルド・ダ・ヴィンチが考案した都市施設の模型製作

指導教員 中西 章

1. 目的

建築家としてのレオナルド・ダ・ヴィンチに興味を持ち、彼が考案した都市計画から具体的な模型の製作を行い、彼の都市に対する考えを考察することを目的とした。

2. 方法

レオナルドの著作には図1のような都市スケッチがみられる。このスケッチと著作にある寸法などから製図し、縮尺 1/100 で模型製作する（写真1）。その模型をもとにレオナルドの考えを考察する。

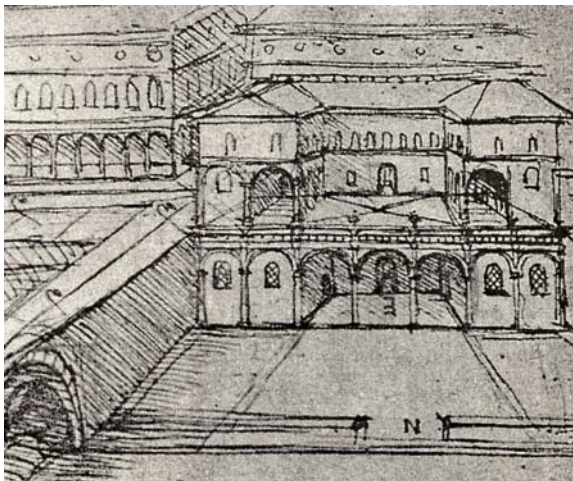


図1 レオナルドのスケッチ

写真1 模型のスケッチ部分

3. レオナルドの都市計画

レオナルドが考えた都市の第一の特徴は、上下に二つの道路が設けられる点である（写真2）。上の通りは紳士淑女が通り、下の通りは荷物の運搬や貧しい人々が通るとされる。また、別のスケッチでは、この下の通りに下水を設けているものもみられる。道路の端には「柱廊」と呼ばれる廊下があり、その先には上下の道路に移動できる螺旋階段がある（写真3）。また螺旋階段の途中にはトイレが設置されている。下の通りは各住宅の中庭に通じており、入り口に馬車が通れるくらいのスペースが空いている。

このような部分的なスケッチのほかに著作によると、レオナルドは都市全体をこのようなシステムで構成した都市計画をも考えていたようである。しかし、ここに示したような都市のシステムを含めて実現された計画はなかった。

4. 考察

道路が上下に分かれているのは、人とサービスを分離する動線の分離を意図したものと考えられる。あるいは当時の社会的な差別が関連しているのかもしれないが、現代の都市計画にも通じる考え方である。

同時に、当時は不衛生によるペストが大流行していたので、下の通りには下水を設けそれによって都市を衛生的にする意図がある。上下を連絡する螺旋階段の途中にトイレが設置されているのも、なるべく住宅から遠ざけて衛生面を配慮しているのだろう。

上の通りが2階に通じているのは、2階は「ピアノ・ノービレ」（高貴な階）と呼ばれて重視され、いわば「主階」であったからである。当時地下室がサービス用であったことをふまえると、2階を事実上の1階、1階を地下室とみなして住宅及び都市を形成していたと考えられる。

下の通りが住宅の中庭に通じるための入り口の大きさから、この中庭は馬車など荷物を運搬するものが出入りし、荷物がサービス用の1階（地下室）に運ばれるためであると推測できる。

5. まとめ

レオナルドのスケッチをもとに都市の模型製作を行った。その結果、レオナルドの都市計画の基本は、人とサービスの動線の分離と都市の衛生面に対する配慮が大きなウェイトを占めていたとみられる。そしてレオナルドはそれを街の景観を保ちつつ表現している。

<参考文献>

長尾重武『建築家レオナルド・ダ・ヴィンチ』中公新書、1994年



写真2 下の通りから中庭への入口



写真3 「柱廊」部分